

2005年5月17日

GDP速報（2005/1-3月期）について

社団法人 経済同友会
代表幹事 北城 恪太郎

1. 2005年1-3月期の実質GDP成長率は、+5.3%（年率換算）となり、昨年
の第1四半期（2004/1-3月期）以来の高い伸びとなった。景気が持ち直しつつあ
ることを感じさせる数字であるが、踊り場局面を完全に脱したと判断するのは
早計であろう。
2. 前期（2004/10-12月期）に低調であった個人消費が今期は好調に転じ、民間
設備投資も大きく拡大するなど、内需拡大がGDPの成長に大きく寄与したこ
とは好ましいことである。一方、輸出の落ち込みにより外需はマイナス寄与と
なっており、その動向には引き続き注意が必要と考える。
3. 内需拡大は明るい材料といえるが、景気回復を確固なものとしていくため、
企業経営者は、自ら率先してイノベーションを進めることで、より一層市場の
拡大や需要の創造に取り組むべきである。一方、政府に対しては、規制撤廃・
緩和、新規事業創造支援等により、民間活力の一層の発揮に向けた環境整備を
求めていきたい。

以 上